

[をクリック](#)

令和2年度 実践研究奨励援助事業 採用校・研究主題一覧

■ 個人研究

| No. | 学校名 | 校長名 | 研究者名 | 研究主題 |
|--------|--------------|------|-------|--|
| 【小学校】 | | | | |
| 1 | 都宮市立豊郷北小学校 | 麦倉克英 | 島田 賢 | 自ら問いをもち、主体的に学ぼうとする児童の育成 ～具体物や地域教材を活用した社会科の学習を通して～ |
| 2 | 日光市立鬼怒川小学校 | 武田幸雄 | 伴 由紀子 | 読書習慣を確立し、児童の読解力を高める ―読書習慣の確立を通して― |
| 【高等学校】 | | | | |
| 3 | 栃木県立那須清峰高等学校 | 薄羽正明 | 鈴木 良孝 | ものづくりを生かした地域活性化への取り組み ～竹明かりの製作～ |

戻る

個人研究<01>

研究主題 自ら問いをもち、主体的に学ぼうとする児童の育成
～具体物や地域教材を活用した社会科の学習を通して～

学校名 宇都宮市立豊郷北小学校

校長名 麦倉 克英

研究者 教諭 島田 賢

1 研究目的

疑問をもつような事象に出会わせることで、主体的に調べようとする児童を育成したいと考え本主題を設定した。本研究では、社会科の学習を中心として、児童にとって身近と感じられる具体物を活用したり、地域教材を開発したりして主体的に学習に取り組む態度を育成しようと考えた。

2 研究内容

(1) 具体物を活用した授業

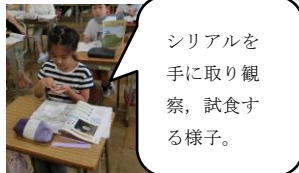
ア 第3学年「シリアル工場のたんけん」

単元の導入として、カルビー工場で作っている「フルーツグラノーラ」を試食させた。「どんな材料が入っているのか。」や、「どのように作られるのか。」、「どんな仕事をしているのか。」など多くの疑問を児童はもつことができた。その疑問から単元の学習問題や、単元の学習計画を児童とともに作成していった。

「材料を知りたい」と袋に注目する様子。



シリアルを手に取り観察、試食する様子。



イ 第3学年「店ではたらく仕事」

スーパーマーケットで働く人の努力や工夫を調べるために近くのスーパーマーケットへ見学に行った。見学の前に、スーパーマーケットで働く人はどんな工夫をしているのか、見学の観点を明確にさせるために、鶏肉の売られ方に注目させた。実際に、トレーに入れられた鶏肉とラップでくるまれた鶏肉を触らせ、なぜ鶏肉がトレーに入れられて売られているのかを考えさせた。鶏肉を触っているうちにラップの方は、どんどんと汁が垂れてきたり、シールが剥がれてきたりして、「買い手が困る。」という意見が児童から出た。一つ一つの品物にも工夫がされていることに気付き、次時のスーパーマーケット見学の際の、見学の視点に目を向けさせることができた。

トレー鶏肉とラップ鶏肉



2つの鶏肉を手に取り、比べている様子。



(2) 地域教材を活用した授業

ア 第3学年「わたしたちの市や生活の様子
のうつりかわり」

郷土資料「豊郷のすがた」から過去の豊郷地区の様子分かる写真や文章を探し、学習の導入で児童に見せた。また、副読本の写真だけでなく、図書室にある「うつのみやの空襲」という戦災記録報告書の戦後間もない宇都宮駅の写真も見せた。すると、「乗り物や服装が次第に変わってきている。」ということなどに気付き、乗り物や服装の変化について図書室で調べる児童もいた。

3 研究成果

具体物や地域教材を活用すると、感嘆の声が授業中に挙がることが多くなり、児童が興味をもって学習に取り組むことができた。特に単元の導入時にそれらを活用すると、単元の計画を自分たちで立てて主体的に調べようとする態度が見られるなど効果的だった。

4 今後の課題

その他、様々な単元で具体物や地域教材を活用した学習の開発を行ったが、実践できないものもあった。今後、以下の実践も行って、主体的に学ぶ児童の育成を図っていきたい。

第4学年「命とくらしをささえる水」

本校の水道水と市販の天然水の飲み比べをし、どちらが本校の水かを当てるという活動を行う。その後、本校の水源である川治ダムの写真や水の様子を見て「この水がどうやってきれいになって本校まで届いているのだろう。」という疑問をもたせる。

第5学年「水産業のさかんな地域」

養殖漁業の事例として、那珂川町の「温泉トラフグ」を取り上げ、身近にも養殖業に携わる人がいることに気付かせる。

戻る

個人研究<02>

研究主題 読書習慣を確立し、児童の読解力を高める

－「読書習慣の確立」を通して－

学校名 日光市立鬼怒川小学校

校長名 武田幸雄

研究者 教諭 伴 由紀子

1 研究目的

「読書習慣の確立」を実現させ、読解力を高める。

2 研究内容

①研究主題の捉え方

若者の読書離れが進み、「高校生2年生の半数超が、月の読書の冊数が0冊」というショッキングな調査結果も出ている。小学校の低学年から、朝学習等で読書に慣れ親しむことによって、読書習慣を確立する事は、読解力向上につながるであろうと考える。

②研究の実際

・「きぬっこ文庫」(写真1)

読書習慣の確立の一環として「きぬっこ文庫」を設けた。年間読書冊数を、低・中・高学年それぞれ各20冊と設定し、小学校在学中に合計60冊を、読み終えてから卒業するという設定である。

・「図書館整備」(写真2)

読書習慣を確立する為に欠かせない条件の一つとして、学校図書館の環境整備があると考えた。そこで、「季節感を出す環境整備」をコンセプトに読書意欲を喚起する環境を整えた。

「教職員による読み聞かせ」(写真3)

新型コロナ感染拡大の影響を受け、読み聞かせボランティアの方による読み聞かせが、出来ない状況にある。それならば、教職員で継続して読み聞かせを行うことが、読書習慣

の確立には、重要であると考えた。

・「先生方のおすすめ本」コーナーの設置
(写真4)

では、実際に先生方はどんな本を読んできたのか？どんな本を子供達に薦めるのか？児童が興味を持ち読書に取り組むには、身近な人による推薦本を推奨することも一助になると考えた。



(写真1)

(写真2)



(写真3)

(写真4)

3 研究成果と課題

- ①「きぬっこ文庫」が出来たことにより、「本を読もう！」という意欲がみられるようになり、読書習慣の確立に有効だった。
- ②季節感を盛り込んだ図書館整備は、図書館を訪れる児童数の増加につながった。
- ③教職員の読み聞かせや図書紹介は、読書意欲を喚起した。
- ④読書習慣の確立と読解力の向上の因果関係が、テストの成績だけでは証明できなかった。

戻る

個人研究<03>

研究主題 ものづくりを生かした地域活性化への取り組み

～竹明かりの製作～

学校名 栃木県立那須清峰高等学校

校長名 薄羽 正明

研究者 教諭 鈴木 良孝

1 研究目的

学校で学習した知識、技術・技能を生かしたものづくりを通し地域の活性化につなげる。また、地域貢献活動を通し将来の建設技術者「地域の守り手」としての意識の高揚を図ることとする。その中で、様々な地域でも取り組まれている竹にデザインした模様にも穴を開け、内部からLEDライトを発光させる竹明かりとした。

2 研究内容

研究の進め方として、建設工学科に付随する建設研究部および3年生の科目「課題研究」で取り組むこととした。

(1) 研究の進め方

- ①製作方法や作業手順について検討
- ②必要備品の検討
- ③地域への展開方法の検討

(2) 製作について

製作のデザインは、子ども達とともに製作することを考えた。そこで、工具メーカーの竹明かりデザインを活用することとした。



図-1 製作の様子

また、力の無い子ども達が安全に作りやすいように竹を固定する治具も用意することにした。また、光源には100円均一で手に入るLEDライトをする事にした。

3 研究成果

研究の成果として、作業手順や作業に必要な治具等の準備を行った。また、製作を通し作業の注意箇所も確認できた。

コロナ禍でもあり、地域と連携しての活動ができなかった。そのため、この活動を地域の子ども達とともに製作にあたることとした。子ども達と一緒に製作し、自分の作品を自宅へ持ち帰ることで、ものづくりの楽しかった経験を身近に感じられることに着目したからである。一緒にものづくりした子ども達が将来の地域の技術者として地元に貢献してもらえるとありがたい。

4 今後の課題

今回の取り組んだ経験を活かし、今年度の「高校生未来の職業人育成事業」に応募し採択された。この秋に、地域の子ども達と製作にあたる予定である。今回の経験を踏まえ、生徒が子ども達を指導し、ものづくりの楽しさを伝えて行く活動を続けていきたい。



図-2 竹明かり